

## Local Use of Bamboo for the Conservation of the Regional Landscape Surrounding Bamboo Forests

栗田, 融  
Faculty of Design, Kyushu University

<https://doi.org/10.15017/17128>

---

出版情報 : 九州大学, 2009, 博士 (芸術工学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

## 補註および参考・引用文献

- 1) 中村良夫, 土木工学大系編集委員会編 (1977) : 景観原論 : 土木工学大系 13 景観論 : 彰国社, 1-31
- 2) 麻生恵, 東京農業大学農学部造園学科造園用語辞典編集委員会編 (1985) : 造園用語辞典 : 彰国社, 166-167
- 3) 鳥越皓之・家中茂・藤村美穂 (2009) : 景観形成とコミュニティ : 農文協 pp308
- 4) 岸田里佳子 (2005) : 景観法の活用について : 建築雑誌 120 (1527) , 23-27
- 5) 平澤毅 (2005) : 文化財保護法の一部改正について一国民生活に身近な文化財を保護するための制度の整備 : 都市計画 54 (1) , 66-67
- 6) 中村貴子 (2006) : 農業・農地保全と文化的景観保全 : 農業と経済 72 (6) , 32-41
- 7) 平澤毅 (2005) : 遺産の保護と文化的景観 : 都市計画 54 (1) , 15-18
- 8) 国土交通省都市・地域整備局都市計画課監修, 景観法制研究会編集 (2004) : 逐条解説景観法 : ぎょうせい, pp223
- 9) 永田恵十郎 (1988) : 地域資源の国民的利用 : 農産漁村文化協会, pp363
- 10) 藍澤宏・後藤匠 (2006) : 農業集落の立地・規模からみた地域資源の保全要件 : 農業集落における地域資源の維持・活用の方法に関する研究 1 : 日本建築学会計画系論文集 (603), 73-80
- 11) 秋津元輝 (2006) : 農村景観の多様性を守るために : 農業と経済 72 (6) , 42-51
- 12) 糸長浩司 (1995) : 近代的・西歐的景観論を超えて : 現代農業二月増刊号, 14-18
- 13) 山本聡・長谷川紀子・藤原道郎・岩崎寛 (2006) : 地域景観保全の観点から捉えた牧草地の認識特性 : ランドスケープ研究 69(5), 695-698
- 14) 住吉徹・包清博之 (2007) : 柳川市の水郷景観保全のための計画区域に関する考察 : ランドスケープ研究 70(5), 601-604
- 15) 栗田英治 (2007) : 土地利用の視点からみた農村景観の変容と保全・形成のあり方 : 農林水産技術研究ジャーナル 30(8), 10-14
- 16) 横張真 (2000) : 国内外の農政における環境保全の位置づけ : ランドスケープ研究 63(3), 182-185
- 17) 上原三知・重松敏則・朝廣和夫 (2003) : 都市近郊農村における里山林の管理・利用実態とその公益的機能に関する研究 : ランドスケープ研究 66(5), 573-578

- 18) 深町加津枝 (2000) : 農村空間における生物相および景観の保全に関する最近 10 年間の研究動向 : ランドスケープ研究 63(3), 178-181
- 19) 世界資源研究所・国際自然保護連合・国連環境計画編集 (1993) : 生物の多様性保全戦略-地球の豊かな生命を未来につなげる行動指針- : 中央法規出版, pp248
- 20) 内村悦三他 (2004) : 竹の魅力と活用 : 創森社, 215pp
- 21) 室井綽 (1973) : ものと人間の文化史 10・竹 : 法政大学出版会, pp311
- 22) 上田弘一郎 (1986) : 竹づくし文化考 : 京都新聞社, pp223
- 23) 沖浦和光 (1991) : 竹の民俗誌 : 岩波書店, pp243
- 24) 鳥居厚志・井鷲裕司 (1997) : 京都府南部地域における竹林の分布拡大 : 日本生態学会誌 47(1), 31-41
- 25) 鳥居厚志 (1998) : 空中写真を用いた竹林の分布拡大速度の推定 : 滋賀県八幡山および京都府男山における事例 : 日本生態学会誌 48(1), 37-47
- 26) 大野朋子・平井潤・丸山宏・前中久行 (1999) : 地形図を用いた都市近郊林における竹林化の解析 : ランドスケープ研究 62(5), 599-602
- 27) 鳥居厚志 (2002) : 空中写真を用いた竹林の分布拡大速度の推定(Ⅱ) : 奈良県天香具山における事例 : 環境情報科学. 別冊, 環境情報科学論文集 (16), 375-380
- 28) 大野朋子・加我宏之・下村泰彦・増田昇 (2002) : 竹林拡大と周辺土地利用との関連性に関する研究 : 大阪府岸和田市を事例として : 環境情報科学. 別冊, 環境情報科学論文集(16), 369-374
- 29) 大野朋子・加我宏之・下村泰彦・増田昇 (2002) : 大阪府岸和田市における竹林の拡大特性に関する研究 : ランドスケープ研究 65(5), 603-608
- 30) 大野朋子・加我宏之・下村泰彦・増田昇 (2003) : 岸和田市における竹林の変容形態と集落・市街地との関係性に関する研究 : ランドスケープ研究 66(5), 547-550
- 31) 大野朋子・下村泰彦・前中久行・増田昇 (2004) : 竹林の動態変化とその拡大予測に関する研究 : ランドスケープ研究 67(5), 567-572
- 32) 西川僚子・村上拓彦・吉田茂二郎・光田靖・長島啓子・溝上展也 (2005) : 隣接する土地被覆別にみた竹林分布変化の特徴 : 日本森林学会誌 87(5), 402-409
- 33) 林加奈子・山田俊弘 (2008) : 竹林の分布拡大は地形条件に影響されるのか? : 保全生態学研究 13(1), 55-64

- 34) 中島章文 (2001) : 都市近郊における竹林の管理・経営の実態-京都市近郊のタケノコ生産地を事例にして- : 森林応用研究 10, 1-7
- 35) 養父志乃夫 (2009) : 里地里山文化論 上 循環型社会の基層と形成 : 農山漁村文化協会, pp215
- 36) 内村悦三他, 内村悦三監修 (2009) : 現代に生かす竹資源 : 創森社, pp217
- 37) 永田和宏 (2002) : 緑地・公園内竹林の市民管理 : ランドスケープ研究 65(4), 302-305
- 38) 藤井義久・重松敏則・西浦千春 (2005) : 北部九州における竹林皆伐後の再生過程 : ランドスケープ研究 68(5), 689-692
- 39) 藤井義久・重松敏則 (2008) : 継続的な伐竹によるモウソウチクの再生力衰退とその他の植生の回復 : ランドスケープ研究 71(5), 529-534
- 40) 日浦啓全・有川崇・バハドゥール ドウラ ドゥルガ (2004) : 都市周辺山麓部の放置竹林の拡大にともなう土砂災害危険性 : 日本地すべり学会誌 41(4), 323-334
- 41) 鳥居厚志 (2007) : 竹林の拡大が土壌保水力に及ぼす影響の解明 : 環境情報科学 35(4), 80-81
- 42) 湯本裕之・倉本宣 (2005) : 都市部ニュータウンにおける竹林の環境保全機能に対する住民の意識 : ランドスケープ研究 68(5), 773-778
- 43) 木村栄理子・深町加津枝・古田裕三・奥敬一・柴田昌三 (2007) : 嵯峨嵐山における竹林景観の実態と景観保全施策に関する研究 : ランドスケープ研究 70(5), 605-610
- 44) 井口よう子 (2007) : 国内における最近の竹林管理および竹利用事情 : 木材工業 62(7), 329-332
- 45) 鳥居厚志 (2008) : 竹資源の持続的利用に向けた取り組み--放置竹林の有効活用のために : 山林 (1487), 24-30
- 46) 別府市 (2003) : 別府市誌第3巻 : 別府市, 306pp
- 47) 秋貞寛治 : 別府竹製品変遷史 (未刊行) : 別府市
- 48) 岩井吉彌 (2008) : 竹の経済史-西日本における竹産業の変遷- : 思文閣出版, 199pp
- 49) 大分県企画部 (1969) : 統計でみた大分県
- 50) 産業別就業人口、竹材粗生産額、竹林面積、竹材生産量とも「大分県統計年鑑」を基に 図 3-1、図 3-2、図 3-3 を作成。
- 51) 大分県企画振興部統計調査課 (2007) : 平成 19 年版大分県統計年鑑
- 52) 林野庁経営課特用林産対策室 : 平成 17 年特用林産基礎資料を基に表 3-2、3-3 を作成。

- 53) 竹林面積は林野庁「森林・林業統計要覧 2008」、竹材生産量およびタケノコ生産量は林野庁「林野庁林産課特用林産対策室：平成7年特用林産関係資料」「林野庁経営課特用林産対策室：平成14年特用林産関係資料」を基に表3-4を作成。
- 54) 大分県のタケノコ生産量の変化は「林野庁林産課特用林産対策室：平成4年特用林産関係資料」「林野庁経営課特用林産対策室：平成17年特用林産基礎資料」による。
- 55) 環境省（1982、1985）：現存植生図 1/50000：第2回・第3回自然環境保全基礎調査（昭和54年度、昭和56～61年度）
- 56) 国土地理院（2005）：数値地図 50000（地図画像）
- 57) Vector Works 2008：エアンドエー社・米国 Nemetschek North America 社
- 58) 計測誤差について：各々の計測において、数値が不利な方向へ誤差を見込み集計した。面積については、現存植生図の線の太さとポイントを落とす精度を考慮し実距離 15mの誤差を見込み、最小竹林および最大竹林の増加割合の平均からすべての竹林面積を 1.7倍している。傾斜度については、データの重ね合わせの精度およびポイントを落とす精度を考慮し、等高線の間隔（直交距離）に対して実距離 50mの誤差を見込み、すべての竹林の距離計測値から減じた。建物・集落および道路からの距離については、データの重ね合わせの精度およびポイントを落とす精度を考慮し、計測距離に対して実距離 50mの誤差を見込み、すべての竹林の距離計測値に加えた。
- 59) 既往研究において、竹林と集落・市街地との距離を求める際に家屋等が3件以上連担しているものを集落・市街地と定義する例（引用文献30）があるが、本研究での対象地は県全域であり、特に山間部においては家屋が点在するケースもあるため、人の関わりが特定できる建物からの距離とし、建物の戸数とその集まりは考慮していない。ただし、建物がまとまりを見せているケースがほとんどであったため、建物・集落までの距離としている。
- 60) アンケートの目的として「地域との関係」を調査する旨を明記し、回答する前に学校名および活動団体名の記入をお願いした。回答の前提として、記入頂いた学校または市民活動団体での取り組みを対象としている。大分県の場合、モウソウチクに限らずマダケの利用事例も多くあると考えられるが、ほとんどの回答者は竹の種別を特定できないと考えられる。また、種別に関わらず竹を使用した実態の把握が調査の対象であるため、アンケート調査票では竹の種別を明示していない。

- 61) 公立小・中学校の教員に対するアンケートは、小・中学生が取り組んだことのある活用事例と活用時に課題となったことなどの実態把握が前提であるため、活用時の実状を把握している立場の教員に回答を求めた。竹に関する取り組みに対して、大分県の教育行政は関知していない。
- 62) アンケート調査票を配付した市民活動団体は、主な活動内容を考慮せずに全ての市民活動団体を対象とした。配布先は、平成21年8月5日時点で、大分県が認証した特定非営利活動法人および「おおいたNPO情報バンク」に登録されたNPOやボランティア活動団体とした。(いずれにも登録されている団体は整理した)
- 63) 表3-1は、46), 47), 48), 49)を基に作成した。
- 64) 大分県総務部総務課(1989):大分県史 地誌篇
- 65) 表3-6は、大分県の関係部局担当者により作成された表を基に、筆者が作成した。
- 66) 青島利浩(1985):ランドスケープ デザイン 造園設計ディテールシート<敷地造成、園路・広場>:理工図書, p25における地形勾配による利用のされ方を参考に、5°毎の区分を設定した。
- 67) 都市公園法第2条第1項に基づいて設置される都市公園の住区基幹公園に対する誘致距離を参考にしている。
- 68) アンケート調査の「設問6の問b」の回答20項目は、引用文献20)などにある地域住民による竹の取り組み事例を参考に、筆者が設定した内容で構成した。竹林に関する事項、簡易な方法で竹を使う事項、平易な加工で竹を使う事項、技術を要し竹を使う事項、竹製品を使う事項、竹を学ぶ事項のほか、特殊な事例に対応するため「その他」に記入欄を設けた。
- 69) アンケート調査の「設問6の問e」の回答10項目の内9項目は、地域住民による竹の取り組み時に考えられる課題を筆者が想定し、①〜⑨として設定した。さらに、想定外の課題内容に対応するため「⑩その他」に記入欄を設けた。
- 70) 大分県土木建築部都市計画課(2007):大分県都市計画区域図、大分県土木建築部都市計画課(2005〜2008):大分県の都市計画(資料編)、大分県企画振興部統計調査課(2006):大分県統計年鑑のデータを基に地域を分類した。